

日本物理学会領域2役員会 議事録

日時: 2018年09月09日(日) 17:30-19:30

場所: 同志社大学京田辺キャンパス C101

司会: 領域2代表 洲鎌

出席者: 洲鎌, 藤田, 森田, 高橋(和), 西浦, 蔵満, 大館, 森, 大島, 山田, 高橋(宏)

書記: 大島

報告事項

洲鎌領域2代表より、以下項目について報告があった。

1. 2018年10月からの新役員

役員 佐々木 徹さん(長岡技術科学大学)

役員 高橋 宏幸さん(東北大学)

役員 山田 琢磨さん(九州大学)

次期役員のおすすめは2019年春年次大会領域2運営会議にて。

2. 2019年4月からの領域代表・副代表の推薦

次期領域代表 藤田隆明さん(名古屋大学)

次期領域副代表 金子俊郎さん(東北大学)

10/29までに学会大会担当あてに推薦書。

11/13領域委員会にて承認の予定。

3. 学生優秀発表賞 受賞者報告

・2018年年次大会(東京理科大学)での受賞者

24件の応募、4名を選出。

・管田 徹也(東京大学 大学院新領域創成科学研究科)

「実験室磁気圏プラズマにおける高エネルギー電子の閉じ込め領域とプラズマ圧力への寄与の解明」

- ・内藤 晋（東京工業大学 環境・社会理工学融合院合理工学系）
「小型トカマク装置 PHiX における誤差磁場の主要原因と対策」
- ・児玉 佳季（東北大学 大学院工学研究科）
「直線プラズマ装置における不安定揺動誘起径方向輸送に対する電子温度勾配の効果」
- ・日下 星野（名古屋大学理学研究科 素粒子物理学専攻）
「電子温度勾配乱流に対するイオン分極と有限 β 効果」

・2018 年秋季大会から、物理学会が設ける賞として、「日本物理学会学生優秀発表賞」となる。

・今回から学生賞授与時に、事務局経由し手続きを進める（これまでは領域 2 の学生賞担当者が手続きを直接進めていた）。

・領域 1 から他領域に対し、web ページにおいて学生優秀発表賞のエントリー方法を明示されるように変更するよう、複数領域で連携して物理学会に申し入れするよう提案があった。領域 2 役員会としても賛同し、運営会議でも意見を諮る。

4. 若手奨励賞（第 13 回 2019 年）に関する報告

締め切りは平成 30 年 7 月 23 日。

5 名の応募があった。

審査委員会は委員長 1 名と委員 5 名の計 6 名。

領域 2 として、

- ・岩田夏弥さん（大阪大学レーザー科学研究所）
「ピコ秒相対論レーザーと高密度プラズマの相互作用の物理」
- ・成行泰祐さん（富山大学）
「非線形磁気流体波の変調不安定性に関する理論研究」

を奨励賞受賞者として推薦する。

領域 2 運営委員会において承認をうける予定。

平成 30 年 9 月 26 日までに、審査結果を学会事務局に報告し、10 月の理事会にて承認される見込み。

5. 2019 年第 74 回年次大会 企画講演・シンポジウム提案・企画セッション等提案について

企画講演

1. 招待講演 未定。引き続き検討。
2. 若手奨励賞受賞記念講演

領域 2 シンポジウム

「レーザープラズマ X 線源の物理と応用」

提案者：藤岡慎介（大阪大学）

提案領域：領域 2（主）、領域 1 及びビーム領域との合同開催を希望。

今後、先方と連絡をとって合同開催の了解を得る。

企画セッション

企画セッションの継続希望について申請者に確認をとり、それについて議論した。

- ・ 高エネルギー密度科学（兒玉了祐（阪大））

2016 年秋季大会運営会議にて新規採択。

期間:2017 年年次大会（3 月）より起算、4 回目の大会（2018 年秋季大会）終了まで

提案者（兒玉）より「継続を希望」との回答があり、承認された。

ただし継続理由の提出が役員会時点でされていなかったため、依頼する。

- ・ 非平衡極限プラズマ（藤澤彰英（九大））

2017 年年次大会運営会議にて採択。

期間:2017 年秋季大会（Plasma2017）より起算、4 回目の大会（2018 年年次大会）終了まで

提案者（藤澤）より、延長は希望しないが、レギュラーセッション（第一キーワード）として取り入れることの提案があった。名称自体には拘らないとのこと。

さまざまな意見・議論があったが、現状のまま第一キーワード（プラズマ基礎、プラズマ科学、核融合プラズマ、宇宙プラズマ）として妥当であるか疑問が残るなどの意見がでている。領域運営員会でも議論することとした。

次回 2019 年年次大会まで継続して議論する予定。

計算物理領域の合同シンポジウムに関する提案

- ・ 複数の研究者（渡邊智彦さん（領域 2：プラズマ）、岡本祐幸さん（領域 1 2：ソフトマ

ター物理、化学物理、生物物理) など) より、物理学を横断する新しい分野として計算物理領域の設立の提案を受けた。

2019年春の物理学会年会において以下の2つのことを立案予定とのこと。

1. 「計算物理インフォーマルミーティング」を新たに企画する
2. 多くの領域との共催で「計算物理シンポジウム」を開催する

- ・大きな反対はなかったが、領域2の講演数の減少を憂慮する声があった。
- ・運営会議でも議論する。

6. 領域委員会 (2018年5月23日) 報告

- ・2018年秋季大会シンポなどの企画・提案について

領域2提案シンポジウム「レーザーイオン加速の現状とその応用研究」

招待講演「ピコ秒相対論レーザーと高密度プラズマの相互作用の物理」

岩田夏弥 (阪大レーザー研)

が承認・採択された。

- ・学生優秀発表賞について

審査員名簿の提出は義務とするが、事後でも問題ない。

審査員については細則に要記載であり、理事会のチェック項目の一つである。

- ・次回の領域委員会 2018年11月13日

7. その他

7-1 「原型炉研究開発ロードマップ (一次まとめ)」についての公表について

科学技術・学術審議会、研究計画・評価分科会、核融合科学技術委員会では、平成30年7月24日に「原型炉研究開発ロードマップ (一次まとめ)」を作成し、報道発表した。

詳細は以下リンクより確認可能。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/074/index.htm

7-2 領域2講演数の推移

近年、漸減傾向にあったが、今回は参加者83名と大きく減少し、今後個別にアナウンスや

声掛けをするよう、代表より依頼があった。

7-3 領域2 懇親会

・ 9/10(月) 19:00-21:00

場所：魚里み夷（とりいえびす） <https://tabelog.com/kyoto/A2601/A260101/26024878/>

以上